

令和3年度 学校評価シート

資料2

内部評価委員会：令和3年4月22日（木）

外部評価委員会：令和3年7月7日（水）

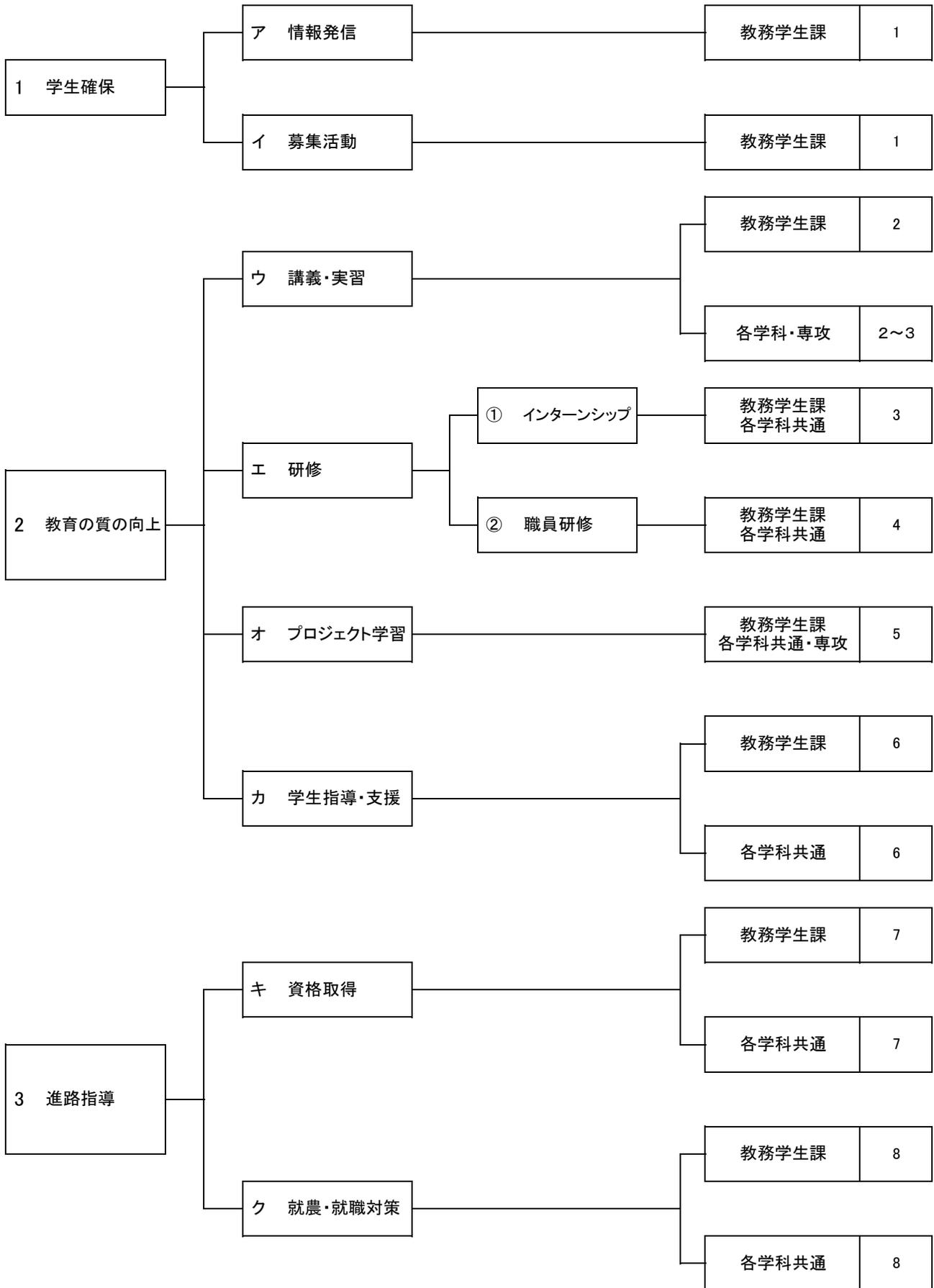
教育方針	農業県・宮崎における実践農業の教育機関として、校訓「自律・創造・協調」を基調とした教育により、将来、本県の農業を担う人材を育成する。
------	--

学校の教育目標	①「生産する力(生産技術)」を育む。 ○講義、演習、農場実習で「生産する力」の定着を図る。 ○インターンシップ、自主企画研修等の校外学習で「生産する力」の向上を図る。
	②「経営する力(経営スキル)」を育む。 ○農業経営科目の講義や農場実習で「経営する力」の定着を図る。 ○校外学習や『学生出資会社』で「経営する力」の向上を図る。
	③「課題を解決する力(課題を見つけ計画的な取組で解決する力)」を育む。 ○専攻実習における『プロジェクト学習』で「課題を解決する力」の定着を図る。 ○『地域連携型プロジェクト学習』で「課題を解決する力」の向上を図る。 ※高校、農家・農業法人、関係機関等とのコンソーシアム方式による連携・共同プロジェクト学習
	④社会性を育む。 ○農家・農業法人における研修、企業連携新商品開発、流通・販売学習を通し、地域社会において積極的に活動し、「ネットワークを構築する力」の定着を図る。 ○『地域連携型プロジェクト学習』を通して「社会で活躍する力」の向上を図る。 ○学生自治会活動や寮生活を通して「コミュニケーション力」や「協調性」の向上を図る。

各学科が育成する人材像	農学科	畜産学科
	本県で主に栽培されている品目を教材に取り上げ、その特徴や栽培技術、商品化技術、農産物の加工・販売についての実践学習を通して、高度な生産技術と経営スキルを身につけ、将来、本県農業に夢を持って意欲的に取り組む人材を育成する。	本県で主に飼育されている畜種を教材に取り上げ、その特徴や飼育管理・繁殖管理・肥育管理技術、出荷の方法、畜産物の加工・販売についての実践学習を通して、高度な生産技術と経営スキルを身につけ、将来、本県畜産業に夢を持って意欲的に取り組む人材を育成する。
	フードビジネス専攻	
農産物・畜産物を利用し、消費者に安全で高品質の製品を提供するため、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理、食品加工技術の向上、食品関連産業との連携による新商品開発力、学生出資会社の運営による流通・販売に至るまでの学習を通して、将来、本県のフードビジネスに幅広く対応できる柔軟な発想力とスキルを身に付けた人材を育成する。		

（宮崎県立農業大学校）

評価項目の構成



評価項目	担当	令和2年度の目標	令和2年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和2年度評価		令和3年度目標及び目標達成のための取組(取組の☆は、新たな取組または強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部	目標	取組
情報発信	教務学生課	①きめ細かなマスコミへの情報提供や学校HP・SNSを活用したリアルタイムな情報発信 ②県内農業高校等及び就職先となる農業法人や農業関連企業・団体への教育成果や学校行事の情報提供	取組	①について ・学校HPの業者委託を取りやめ、学校職員での情報更新に移行(☆) ・職員のSNSリテラシーの向上研修の実施 ・学生出資会社のInstagramの内容充実 ②について ・SAP地区大会での学生プロジェクト発表や県冬季大会への参画(☆) ・県内農業高校生等も参画できる開放型講座・研修の計画的な開催	B	A	目標	①きめ細かなマスコミへの情報提供や学校HP・SNSを活用したリアルタイムな情報発信 ②県内農業高校等及び就職先となる農業法人や農業関連企業・団体への教育成果や学校行事の情報提供
			成果	①について ・学校HPの業者委託を取りやめ、職員が情報更新ができるHPに移行した。 ・最大市や高大連携事業についてはマスコミへ情報提供を行い、取材を要請した。 ※新聞掲載:(5)件、テレビ報道:(5)件 ・県大校facebook及び学生出資会社のInstagramによる情報発信に取り組んだ。 ※令和2年度:4月~1月のfacebook発信件数:80件 令和元年度:68件(ニュージールランド報告を除く) Instagramの発信件数:40件 令和元年度:37件【フォロワー数:205名】 ②について ・SAPの各大会は中止。校内プロジェクト発表・意見発表会にSAP会員2名が参加した。 ・コロナウイルス感染拡大による行事の相次ぐ中止により、高校及び進路支援企業が主催する進路ガイダンスや農業高校との連携に関する行事が減少した。 ・進路ガイダンスへの参加:7回 ・国費を活用した高校生対象の研修「アグリドリームキャンプ」は規模を縮小して実施した。(10月21日) ※農業を学ぶ高校2年生:59名、高校教職員:9名参加 ・例年実施する法人マツングは、規模を縮小することなく実施した。(6月24日):法人50社参加			取組	①について ・職員のSNSリテラシーの向上研修の実施 ・担当職員のFacebookやinstagram等のSNSへの投稿に関する研修を行い、定期的な情報発信を行う体制整備 ・ひなたMAFiNホームページの定期的な更新(☆) ②について ・SAP地区大会での学生プロジェクト発表や県冬季大会への参画 ・県内農業高校生等も参画できる開放型講座・研修の計画的な開催
学生確保	教務学生課	①農業系の高校生や高等学校教諭等にインバクトのある学校紹介の展開 ②農業系以外の高校生や高等学校教諭等に、4年制大学や日本農業経営大学校への進学ができる専修学校としての意識の醸成・定着	取組	①・②共通「農業系・農業系以外の高等学校共通の取組」 ・本校管理職、教職員による県内高校訪問 ・高校生向け進路ガイダンスの開催 ・高鍋農業高校と連携した中学生へのオープンキャンパス ・リーフレットの刷新及び学校紹介販促グッズの作成、配布 ①について ・オープンキャンパスや合宿型アグリドリームキャンプの開催(☆) ・高校の担当教諭との意見交換・相互授業参観の実施 ・高大連携でのプロジェクト活動やスマート農業関連講座の充実 ②について(☆) ・農業実践塾の活動も組み込んだ農業系以外の高校生及び一般県民向け総合パンフの作成 ・新しい修学支援制度の対象校であることのPR	B	B	目標	①農業系の高校生や高等学校教諭等にインバクトのある学校紹介の展開 ②農業系以外の高校生や高等学校教諭等に、4年制大学や日本農業経営大学校への進学ができる専修学校であることの周知
			成果	①・②共通 ・県内公立・私立高等学校のうち51校を対象に学生募集要項及びオープンキャンパスについて説明した。 ※5月~6月に管理職対象、6月~7月に進路指導主事を対象に実施 ・農業に関する学科・系列設置高校8校については、授業参観・農場視察・農業担当教諭等との意見交換も実施した。 ・リーフレットについては、本校がデザインを作成し、印刷を業者に依頼した。 ・オープンキャンパスについては、7月4日に開催したが、8月2日開催分については中止した。 ・10月24日に高鍋農業高校のオープンスクールに参加した中学生の体験入学を実施した。 ※中学生12名、保護者16名参加 ・高校生の農大校見学については、農業系の高校には各学校の期日指定、農業系以外の全ての高校には10月18日開催で案内した。 ※農業系以外の高校は、宮崎商業高校から高校生1名、保護者2名参加 ※農業系の高校は、3校・6学科から高校生182名参加 ・10月21日に開催したアグリドリームキャンプでスマート農業を実践している農業法人経営者の講演及びロボットトラクタや農業用ドローンの実演を実施できた。 ※高校2年生59名と高校教職員9名が参加、参加者の79.7%が「農業大学校を進路の選択の一つに加えたい」と回答 ・8月24日に日南振徳と宮崎日大の生徒2名が農大校見学に来校し、対応した。 ■コロナ禍で中止又は規模縮小となったもの ・第2回オープンキャンパス(8月2日)は中止 ・1月実施予定の農業系高校の農大校視察は5校・10学科が中止 ・アグリドリームキャンプは合宿型(1泊2日)から日帰り日程に縮小 ・進路サポート企業主催の高校生向け進路ガイダンス			取組	①・②共通 ・本校管理職、教職員による県内高校訪問 ・高校生向け進路ガイダンスの開催 ・高鍋農業高校と連携した中学生へのオープンキャンパス ・リーフレットの刷新及び学校紹介グッズの作成、配布 ・新しい修学支援制度の対象校であることのPR ①について ・オープンキャンパスや合宿型アグリドリームキャンプの開催 ・高校の担当教諭との意見交換・相互授業参観の実施 ・高大連携でのプロジェクト活動やスマート農業関連講座の充実 ②について ・農業系以外の高校生及び一般県民向け総合パンフの作成

評価項目	担当	令和2年度の目標	令和2年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和2年度評価		令和3年度目標及び目標達成のための取組(取組の☆は、新たな取組または強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部	目標	取組
教育の質の向上	講義・実習	①本校教職員の指導力向上による教育内容の充実 ②学校教育法が求める専修学校としての教育環境の高度化・充実	①について ・知事部局職員に対する研究授業の実施 ・外部講師授業の充て職の見直し ・管理運営要領等の学校規則やGAP規範に基づく指導力向上 ・発達障害や多様な家庭環境に対応できる研修会の開催 ②について ・論理的な思考力を育てる基礎教養講座や学科横断プロジェクトの創設(☆) ・グローバルな視点を支える英会話講座の新設・充実(☆) ・延岡学園と連携した調理という6次産業化教育の充実 ・スマート農業に対応できる農場施設の再整備(☆)	B	B	①本校教職員の指導力向上による教育内容の充実 ②学校教育法が求める専修学校としての教育環境の充実	①について ・知事部局職員に対する研究授業の実施 ・外部講師授業の充て職の見直し ・学生の多様性を理解するための研修会の開催 ②について ・論理的な思考力を育てる基礎教養講座や学科横断プロジェクトの創設 ・グローバルな視点を支える英会話講座の新設・充実 ・関係機関と連携した6次産業化教育の充実 ・スマート農業に対応できる農場施設の整備	
			①について ・9月15日に研究授業と授業に関する研究協議を実施し、知事部局職員に授業の進め方を研修した。 ・12月23日の指導力向上研修会における「教務に関する規程等細則」に関する協議を通して、学生の教科指導について共通理解を図った。 ・8月17日・12月23日の指導力向上研修会において、発達障害等、配慮の必要な学生の実態について共通理解を図った。 ②について ・1年に「数学」講座を開設し、理解度に応じて「数学基礎」と「実用数学」に分けて講義を実施した。 ・「英会話」講座を1単位増単し、1年後期から講義をスタートした。(前年度は2年から) ・海外農業研修代替研修をオンラインで実施した。 ・園芸ハウスと畜舎の複合環境制御システムを整備した。 ・農業散布用ドローン、GPSを活用した自動操舵トラクター・田植え機を整備した。 ・「スマート農業基礎」講座を開設した。 ・プレゼンテーションを行う授業の多い専原教室、第6、第7教室に天井吊り下げ型の液晶プロジェクタを整備した。 ■コロナ禍で中止となったもの ・高等学校のALT(英語指導助手)と連携した授業(1月に実施を計画していたが中止) ・海外農業体験研修(代替研修として実施) ・延岡学園と連携した調理という6次産業化教育			①について ・知事部局職員に対する研究授業の実施 ・外部講師授業の充て職の見直し ・学生の多様性を理解するための研修会の開催 ②について ・論理的な思考力を育てる基礎教養講座や学科横断プロジェクトの創設 ・グローバルな視点を支える英会話講座の新設・充実 ・関係機関と連携した6次産業化教育の充実 ・スマート農業に対応できる農場施設の整備		
教育の質の向上	講義・実習	①講義と実習及びプロジェクト活動の効率的実施による、基本的な生産技術と経営スキルの習得 ②GAP実践による適正な農場管理手法の習得 ③ICTを活用した先進的な農業技術の習得	①・②共通 ・安心で安全な農産物を生産するため、農場長、各部長を中心とした自主的な農場運営の実施 ①について ・進路実現に繋がるインターンシップや自主企画研修の実施 ・地域の教育力を積極的に取り入れた校外学習など実践的なカリキュラムの実施 ・実践的な販売力を身につけるため、「アグリカレッジひなた」との連携による地域イベントへの積極的な参加 ・花き専攻・・・確実なプロジェクト活動実践(☆) ②について ・作物専攻・・・ひなたGAP(維持審査)の実践 ・野菜専攻・・・ひなたGAP(更新)、ASIAGAP(維持審査)の実践 ・果樹専攻・・・ひなたGAP(更新)の実践 ③について ・企業・大学等と連携したスマート農業、ICT教育の実施	A	A	①講義や実習及びプロジェクト活動の効率的実施による、各専攻毎の基本的な作物栽培技術と経営スキルの習得 ②「ひなたGAP」や「ASIAGAP」などGAP実践による適正な農場管理手法の習得 ③スマート農業への対応、農業機械並びに複合環境制御装置を導入した園芸ハウスを活用した先進的な農業技術の習得	①・②共通 ・安心で安全な農産物を生産するため、農場長、各部長を中心とした自主的な農場運営の実施 ①について ・県内の先進的な農業経営体での事例研究など校外での学習カリキュラムの実施 ・実践的な販売力を身につけるため、「アグリカレッジひなた」との連携による地域イベントへの積極的な参加 ②について ・作物専攻・・・ひなたGAP更新審査合格に向けた、基準書実践、自己点検 ・野菜専攻・・・ひなたGAP維持審査及びASIAGAP更新審査合格に向けた、基準書やマニュアルの実践、自己点検 ・果樹専攻・・・ひなたGAP維持審査合格に向けた、基準書実践、自己点検 ③について ・関連企業・大学等と連携した講義【スマート農業基礎】(1年生)、【スマート農業活用】(2年生)及び機械操作実習の実施	
			①について ・農場長制度の導入により、学生自ら農場運営に取り組むとともに、GAPの実践により安心で安全な農産物の生産を実践した。 ・インターンシップ I や自主企画研修を行った先進農家や法人先からの評価は概ね良好であった。 ※受入先の評価:4.3(5点満点) ・県内、管内の先進農業者の取組や農産物流通について、専攻毎に地域の教育力を活用したカリキュラムを実施した。 ②について ・作物専攻:ひなたGAP更新審査受検(11/20 ピーチ)。改善報告を行い審査結果待ち(2月12日現在) ・野菜専攻:ひなたGAP更新審査受検(11/20 トマト、ミニトマト、すいか、ピーマン、きゅうり、メロン、いちごの7品目)。改善報告を行い審査結果待ち(2月12日現在) ・ASIAGAP維持審査受検(12月1日・2日 トマト、ミニトマト、すいか、ピーマン、きゅうり、メロン、いちごの7品目)改善点を更新し、合格(R3年1月8日) ・果樹専攻:ひなたGAP更新審査受検(11/20 マンゴー)。改善報告を行い審査結果待ち(2月12日現在) ③について ・1年生を対象に、講義「スマート農業(基礎)」を実施。講師に、宮崎大学及び農業者、農業法人、企業3社の講師を招聘 ・作物専攻では、ヤンマーアグリジャパンと連携し、6月2日ドローンによる水稲のリモートセンシングを行いその結果を種肥の施肥に活用			①・②共通 ・安心で安全な農産物を生産するため、農場長、各部長を中心とした自主的な農場運営の実施 ①について ・県内の先進的な農業経営体での事例研究など校外での学習カリキュラムの実施 ・実践的な販売力を身につけるため、「アグリカレッジひなた」との連携による地域イベントへの積極的な参加 ②について ・作物専攻・・・ひなたGAP更新審査合格に向けた、基準書実践、自己点検 ・野菜専攻・・・ひなたGAP維持審査及びASIAGAP更新審査合格に向けた、基準書やマニュアルの実践、自己点検 ・果樹専攻・・・ひなたGAP維持審査合格に向けた、基準書実践、自己点検 ③について ・関連企業・大学等と連携した講義【スマート農業基礎】(1年生)、【スマート農業活用】(2年生)及び機械操作実習の実施		

○評価基準(達成度) A=90%~100%の達成度 B=達成度70%~89% C=達成度50%~69% D=達成度50%以下

評価項目	担当	令和2年度の目標	令和2年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和2年度評価		令和3年度目標及び目標達成のための取組(取組の☆は、新たな取組または強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部	目標	取組
教育の質の向上	講義・実習	畜産学科 ①実践学習による本県畜産に関する生産技術と経営スキルの習得 ②GAPの実践による適正な農場管理手法の習得 ③ICTを活用した先進的なスマート農業技術の習得	取組 ①について ・畜産関係団体、畜産関係企業、畜産法人等と連携した実践的な講義や研修、校外学習の実施 ・企業や「アグリカレッジひなた」と連携した実践的な販売実習の実施 ②について ・農場の運営強化による生産性の向上 ・肉用牛専攻・酪農専攻・・・JGAP家畜・畜産物の認証取得(☆) ③について ・企業・大学等と連携したICT教育	A	A	目標	①畜産を担うための生産技術及び経営スキルの習得 ②GAPの実践による適正な農場管理手法の習得と農場生産性の向上による実習意欲の向上 ③ICTを活用した先進的なスマート農業技術の取得	
		畜産学科 ①実践学習による本県畜産に関する生産技術と経営スキルの習得 ②GAPの実践による適正な農場管理手法の習得 ③ICTを活用した先進的なスマート農業技術の習得	成果 ①について ・大学や畜産関係団体5名による家畜人授精師・判読資格取得のための講義や実習、大学や畜産関係企業3名による食品加工や先進農家等6カ所の先進事例研究等の講義、研修を実施した。 ・山形屋ストアにおける農大牛販売(3回)やアグリカレッジひなたと連携した新商品開発に取り組み、「農大カレーBBQ」を商品化した。 ②について ・各専攻でGAPに基づき、生産目標をたて、生産性向上に取り組んだ。郡市子牛品評会(1月6日)において優等賞をとるなど、生産性の向上が図られ、学生の意識の高揚が図られた。 ・県主催のGAP認証のための研修を本校で3回(10月、11月、2月予定)実施し、認証申請できる体制が整った。 ③について ・大学と民間企業5社による講義や畜試や民間企業の視察によるスマート農業の習得に努めた。	A	A	取組	①について ・関係団体、畜産関係企業、畜産法人等と連携した実践的な講義、研修、校外学習の実施 ②について ・酪農・肉用牛専攻におけるJGAP家畜・畜産物の認証取得 ・講義や校外学習、実習によるGAPの取り組み指導及び取り組み徹底 ③について ・企業や大学、法人と連携したICTの講義、スマート農業基礎【1年生】、スマート農業活用【2年生】の実施 ・ICT機器や環境制御型牛舎を活用したデータに基づく実習の実施	
教育の質の向上	講義・実習	フードビジネス専攻 ○食品加工から流通・販売までのフードビジネスに幅広く対応できるスキルの修得	取組 ・「食品衛生法」や「食品表示法」等の知識を習得するため、食品製造関係の資格取得を目指した講義の実施(☆) ・食品の機能性、食品の成分分析方法など、食品に関する知識を深めるため、南九州大学と連携した専門的な講義の実施 ・商品開発の過程における官能評価法について、最新設備を備えた食品開発センターにおける実習 ・一般社団法人みやPECと連携した講義実習 ※トップパティシエによる県産果実を利用した菓子製造技術の向上 ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理法について専門家を招聘した授業の実施(☆)	A	A	目標	○食品加工から流通・販売までのフードビジネスに幅広く対応できるスキルの修得	
		フードビジネス専攻 ○食品加工から流通・販売までのフードビジネスに幅広く対応できるスキルの修得	取組 ・県外講師による食品表示の講義を10月に実施予定であったが、コロナウイルスに配慮し、オンデマンド講座を実施した。(8月28日～11月22日) ・南九州大学と連携し、12月末から3月にかけて講義を実施している。 ・食品開発センター「おいしさリサーチラボ」において、商品開発における官能評価法について研修を実施した。(6月30日) ・みやPECの主催するスイーツプロジェクト(県内高校、大学、専門学校が対象)において、「農大ビーツのブラウニー」が優秀賞(トップ3)を受賞するなど学生の商品開発技術の向上をアピールできた。(応募数194品) ・フードビジネス相談ステーションの紹介による企業相談の実績がある専門家を招聘し、本校のHACCP実践に役立つ講義が実施された。(5月末～5回実施)	A	A	取組	・「食品衛生法」や「食品表示法」等の知識を習得するため、食品製造関係の資格取得を目指した講義の実施 ・食品の機能性、食品の成分分析方法など、食品に関する知識を深めるため、南九州大学と連携した専門的な講義の実施 ・商品開発の過程における官能評価法について、最新設備を備えた食品開発センターにおける実習 ・一般社団法人みやPECと連携した食品コンテストへの出展に係る講義実習 ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理法について専門家を招聘した授業の実施	

評価項目	担当	令和2年度の目標	令和2年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応		令和2年度評価		令和3年度目標及び目標達成のための取組(取組の☆は、新たな取組または強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部		
教育の質の向上 研修 (インターンシップ)	教務学生課 各学科共通	①学生が自らの進路を見いだせるインターンシップの展開 ②学生のニーズに対応したインターンシップや自主企画研修の実施 ③研修効果をさらに高めるための受入先との連携強化	取組	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップⅠ・Ⅱ、自主企画研修 ・これまでの農業法人や農業関係企業・団体での研修に対する学生の評価、及び派遣先における感染症対策等を勘案し、研修先の絞り込みと新規開拓 ・インターンシップⅢ(☆) ・異業種事業者等での研修という漠然とした目的ではなく、農福連携や食育など、本校の教育目標を明確に伝えた上での研修となるよう研修先と調整を行う。 <p>②・③共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職を見据えた研修先のデータベース化 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な研修先の選定 ・新たな研修先の確保と研修充実のための宮崎県農業法人経営者協会との連携強化 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修先の巡回による研修態度の確認 			目標	<p>【学科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生のコミュニケーション能力や実践力を高めるためのインターンシップや自主企画研修の実施 ②研修効果を更に高めるための受入先との連携強化
			成果	<p>コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模縮小及び研修先の変更などを余儀なくされた。</p> <p>■インターンシップⅠ</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修は例年バスやタクシーなどの公共交通機関を利用して、研修先に学生を派遣していたが、コロナウイルス対応のため、バス・タクシー会社も規模を縮小しており、公共交通機関を利用することが不可能となった。そのため、学生が自家用車を利用して研修先に向かう手立てをとり、研修を計画通りに実施することができた。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実績よりデータベース化を図り、農学科12カ所、畜産学科9カ所で受け入れていただいた。 <p>■インターンシップⅡ</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月末に実施を計画していたが、県全域の緊急事態宣言が発令されたため、延期の措置としている。3月中旬頃に実施を考えている。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実績よりデータベース化を図った。 ・1月29日現在、延期 <p>■インターンシップⅢ</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、老人ホームや介護施設、幼稚園等の異業種業者等で研修としているため、コロナウイルス感染予防の観点で受け入れていただくことが難しく、研修先の変更を余儀なくされた。検討の結果、県の出先機関や川南町役場・高鍋町役場で研修を受け入れていただいたところ、今年度実施した研修が学生のニーズに即していた。 ※来年度もこの形で実施したいと考えている。 <p>■自主企画研修</p> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実績よりデータベース化を図り、農学科38カ所、畜産学科15カ所で受け入れていただいた。 ※先進農家や農業法人の他、JA児湯、経済連直販等で受け入れていただいた。 ・実績のない研修先については、職員が出向き新規開拓に努めた。(新規研修先:3カ所) ・進路を見据えた研修となるよう、過去3年間の就職先・研修先一覧を作成し研修選択に役立てた。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修の受入先を職員が分担し、1回以上の巡回を実施した。また、巡回の際の情報交換・意見聴取により、受入先との連携強化を図った。 	B	A	取組	<p>【学科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①・②共通 ・研修受入れ可能な農業法人などの研修先情報収集と蓄積 ・学生進路等に配慮した研修先の選定指導 ・研修先選定の参考とするための個別面談の実施 ・自主企画研修実施計画作成指導など研修決定までの事前研修強化 ②について ・研修先の巡回による研修態度の確認

評価項目	担当	令和2年度の目標	令和2年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応	令和2年度評価		令和3年度目標及び目標達成のための取組(取組の☆は、新たな取組または強化する取組)	
				内部	外部	目標	取組
教育の質の向上	研修 (職員研修)	教務学生課 各学科共通	<p>①・②共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学生による授業評価」の実施及び分析結果の公表 宮崎県高等学校農業教育研究会への参画(☆) <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育担当副校長等が実施する指導力向上研修会の開催(年3回) 教務学生課が実施する情報処理技術研修会の開催 (EXCEL、農大メールシステム、アンケート回収システム) 「アグリビジネス」「スマート農業」講座等の一般開放講座への参画 全国農業大学協議会主催の指導力向上研修会への参加 1科目1回の授業評価の実施 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> 知事部局の品目毎の技術員会や技術調整会議への参画 校外で実施される技術向上研修会等の情報収集と共有、周知 高校等と連携したプロジェクトの実施 県内外の先進的な取組・技術の調査研修の実施 九州地区農業大学協議会の部門別研修会への参画 	B	B	目標	<p>①授業力及び学生指導力の向上</p> <p>②担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上</p>
			取組			<p>【教務学生課】</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各科目の授業評価は、マークシートを利用して実施、分析結果を教科担任に公表している。 11月に「学生生活に関するアンケート」として学生全員を対象に講義や専攻実習及び校外実習等についての満足度を把握し、結果を職員間で共有した。 宮崎県高等学校農業教育研究会・特別部会が本校で開催され、職員も参加した。(12月) 指導力向上研修会を3回実施した。また、着任1年目の指導職員に対して授業の進め方や農大校教育に関する個別研修を4月21日に実施した。 情報処理に関わる研修会を、3回実施(メール・アンケート回収・遠隔授業に関する研修) <p>【農学科】</p> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> 知事部局の品目毎の技術員会や技術調整会議への参画した。 ア 児湯地区営農振興協議会野菜部会研修会(6/19、10/20) イ 果樹調査研究会(5/26) ウ 技術調整会議(花き 6/18) <ul style="list-style-type: none"> 校外で実施される技術向上研修会等の情報収集と共有、周知した。 ア チャレンジファーム報告会(5/26) イ 農業散布ドローン講習会(11/2~11/6) ウ 高鍋・木城有機農業研修会(11/26) <ul style="list-style-type: none"> 野菜専攻において、高鍋農業高校と連携したプロジェクトに取り組んだ。 ※テーマ:「メロンとミニトマトの連根シート栽培における焼酎粕加工液の土壌病害抑制と施肥効果について」 <p>【畜産学科】</p> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> GAPの認証取得に向け、オンライン研修や団体認証研修に参加し、技術習得に努めた。 高鍋農業高校と連携したプロジェクトを肉用牛専攻が実施した。 ※テーマ:「子牛の雌雄判別について」 畜試や民間企業での視察によるスマート農業の技術習得に努めた。 畜産の部門別研修会の当番県であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。 <p>【フードビジネス専攻】</p> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮崎のフードビジネスの新時代をテーマにした「ひなたMBAキックオフセミナー(主催:フードビジネス相談ステーション)」に参加し、食品企業におけるSDGsについて学んだ。(10月10日、職員2名) 宮崎県食品表示セミナーを受講し、食品表示に関する基礎知識を習得し授業で活用(10/30 職員1名) <p>■コロナ禍で中止となったもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に高鍋農業と連携し「レトルトカレー加工製造研修(企業視察)」を8月末に計画したが実施不可 	

評価項目	担当	令和2年度の目標	令和2年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和2年度評価		令和3年度目標及び目標達成のための取組(取組の☆は、新たな取組または強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部	目標	取組
教育の質の向上	プロジェクト学習	教務学生課 各学科共通	取組	①について ・高鍋農業高校との高大連携会議や部門別会議、プロジェクト研究の実施 ・合宿型アグリドリームキャンプの開催(☆)	B	A	目標	①高大連携によるプロジェクト学習の充実 ②産学官連携によるプロジェクト学習の充実
			成果	②について ・地域未利用資源を活用したプロジェクト学習の充実 ・スマート農業の実現に向けたプロジェクト学習の充実 ※九州地区農業大学校プロジェクト発表会で野菜専攻が3位入賞し、全国大会出場を果たした。			取組	①について ・高鍋農業高校との高大連携会議や部門別会議、プロジェクト研究の実施 ②について ・地域未利用資源を活用したプロジェクト学習の充実 ・スマート農業の実現に向けたプロジェクト学習の充実
		農学科	取組	①・②・③共通 ・農業高校や各関係機関と連携した地域連携型プロジェクト学習の実施 ・チャレンジファームの活用や企業等との連携による課題解決に向けた取組の実施			目標	【農学科】【畜産学科】共通 ①地域課題を踏まえたプロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上 ③課題解決能力の向上による優れた農業経営者等の育成
			成果	①・②・③共通 ・高鍋農業高校との連携として、野菜専攻2年生が「メロン、ミニトマトで遮根シート栽培における焼酎粕加工液の土壌病害抑制と施肥効果」を検討するプロジェクト課題に取り組み、卒業論文にまとめた。 ・総合農業試験場との連携として、果樹専攻が「ライチにおけるカイガラムシの薬効及び農薬の残留確認」をプロジェクトとして実施した。 ・企業との連携では、笹サイレージを活用し、作物専攻が「小麦の収量向上」、野菜専攻が「メロンの品質と収量向上」をプロジェクトとして実施した。			取組	①について ・高鍋農業高校との高大連携推進委員会及び部門別会議を実施し、今年度のプロジェクト活動について方針を確認した。また、部門毎にプロジェクトに取り組み、成果を校内プロジェクト発表会で発表した。 ・合宿型アグリドリームキャンプについては、コロナウイルス感染拡大に伴い、日帰り日程に縮小して実施した。 ※高校2年生59名と高校教職員9名が参加 ②について ・各学科において取組を推進した。
畜産学科	取組	①・②・③共通 ・農業高校や各関係機関及び企業と連携したプロジェクト学習の実施	取組	【農学科】【畜産学科】共通 ①・②・③共通 ・学科や農業高校、各関係機関と連携した地域連携型プロジェクト学習の実施 ・チャレンジファームの活用や関連企業等との連携による課題解決に向けた取組の実施 ・中間プロジェクト発表会等を活用した課題解決に向けた助言の実施				
	成果	①・②・③共通 ・高鍋農業高校と連携し、「子牛の雌雄判別に関する研究」を行った。 ・本校農学科や民間企業、農業団体、試験場と連携したプロジェクトに取り組み(13課題)、課題解決能力の向上が図られた。	目標	①高大連携プロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上				
フード ビジネス 専攻	①高大連携プロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上	取組	①・②共通 ・農業高校や南九州大学、及び各関係機関や企業と連携したプロジェクト学習 ・学生出資会社の運営を通じたプロジェクトの実施	取組	①・②共通 ・農業高校や南九州大学、及び各関係機関や企業と連携したプロジェクト学習 ・学生出資会社の運営を通じたプロジェクト活動の実践			
		成果	①・②共通 ・延岡学園高等学校と共同で取組み、国務大臣賞を受賞した「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」のレガシーとして「ピーズのドレッシング」の商品化についてプロジェクト学習に取組み、「ピーズの真っ赤なソース」として12月に商品化することが出来た。 ・学生出資会社の畜産学科とフードの学生が主体となり、農大牛肉とピーズを使った「レトルトカレー」の商品開発に取り組んだ。3月までには、高鍋農業高校食品科学科と「高大連携レトルトカレーセット」として、学生出資会社において販売予定である。 ・南九州大学および株式会社デイリーマームと連携し、農大産レッドピーズの栄養・機能性、ピーズ料理について一般消費者へのPRを目的に、「ピーズイベント(講演会・試食会)」を実施することが出来た(12月13日)					

○評価基準(達成度) A=90%~100%の達成度 B=達成度70%~89% C=達成度50%~69% D=達成度50%以下

評価項目	担当	令和2年度の目標	令和2年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応	令和2年度評価		令和3年度目標及び目標達成のための取組(取組の☆は、新たな取組または強化する取組)	
				内部	外部		
教育の質の向上	学生指導支援	教務学生課 ①学生の自治能力の向上及び規範意識の向上 ②学校と後援会(保護者)とのネットワーク強化	取組 ①・②共通 ・メールシステムやSNSによる学校活動の情報提供を図るとともに、学生の成績や生活態度(寮反則点数を定期的に保護者に通知することで、保護者が学生を安心して預けられる環境を整備する。(☆) ②について ・農場でのGAP教育、コロナ感染症対策指導を通して更なるルールの見える化を図る。(☆) ※自分を守るためにルールがあることを学ばせる取組	B	B	目標 ①学生の自治能力の向上及び規範意識の向上 ②学校と後援会(保護者)とのネットワーク強化	取組 ①・②共通 ・メールシステムやSNSによる学校活動の情報提供を図るとともに、学生の成績や生活態度(寮反則点数を定期的に保護者に通知することで学生の取組状況を共有し、保護者が学生を安心して預けられる環境を整備する。
			成果 ①・②共通 ・メールシステムやSNS及びホームページで学校活動の情報提供に努めた。メールについては、毎週土曜日に、次週以降の行事予定や連絡事項を中心に発行した。 ・寮の反則点については、保護者への定期的な通知ができなかった。 ・コロナ感染症対策については、連絡メール及び学校ホームページを通じて情報や通知を発信した。 ②について ・後援会担当職員に対する、メール及びアンケート集計の研修を実施した。コロナ禍でも可能な限り保護者との連絡を取ることができるよう努めた。				
	各学科共通	①農場長と部長を中心とした農場運営の充実やGAP実践の徹底 ②学生自治会規則及び学生寮自治規則の周知と徹底	取組 ①について ・2年生から1年生への円滑な農場運営の引継ぎ支援 ・GAPの取り組み徹底による、学業、農場、生活指導の徹底 ・農場長制度やGAPの取組の見える化表示等の充実と点検結果の公表 ②について ・学生による学校生活に対する自己評価の実施及び評価結果の公表(☆)	B	A	目標 【農学科】 ①農場長と各専攻部長を中心とした農場運営の充実、「ひなたGAP」及び「ASIAGAP」実践の徹底 【畜産学科】 ①GAPの認証取得とGAPの取り組み実践による学業、農場、生活指導の徹底	取組 【農学科】 ①について ・2年生から1年生への円滑な農場運営の引継ぎ支援 ・[GAP演習]、[農業生産工程管理]の講義開催や農場でのGAP取り組み徹底 ・各GAPのマニュアルや基準書の自己点検、外部講師の評価・改善指導実施 【畜産学科】 ①について ・2年生から1年生への円滑な農場運営の引継ぎ支援 ・講義や校外学習、実習によるGAPの取り組み指導及び取り組み徹底
			成果 【農学科】 ①について ・農場運営については、1月6日の学科集会において2年生から1年生への引継ぎ式を実施した。 ・ひなたGAPとASIAGAPの基準書や農場マニュアルの自己点検に取組むことにより、GAPへの理解が深まり、留意事項の遵守、安全な農作業の取組が徹底した。 ・ひなたGAPとASIAGAPの点検、維持審査受検により、GAP取組の見える化表示と学生に点検結果を説明できた。 【畜産学科】 ①について ・2年生と1年生が時間外実習等において技術の継承を行い、11月の自主企画研修終了後、完全な引き継ぎが行われた。 ・県主催のGAP認証のための研修を本校で3回(10月、11月、2月予定)実施し、JGAP家畜畜産物の認証申請できる体制が整った。 ・今後、認証取得を行い、見える化表示等の充実と評価結果の公表に取り組む。				
進路指導	資格取得	教務学生課 ①各種資格取得による実践力の向上 ②新たな資格取得環境の整備	取組 ①について ・進路別に取得すべき資格取得の明確化 ・資格取得を支援するカリキュラム・授業内容の見直し ②について ・本校でのドローン操縦資格取得環境の整備(☆)	C	B	目標 ①各種資格取得による実践力の向上 ②新たな資格取得環境の整備	取組 ①について ・進路別に取得すべき資格の明確化 ・資格取得を支援するカリキュラム・授業内容の見直し ②について ・本校での農業散布用ドローン操縦資格取得環境の整備
			成果 ①について ・令和3年度に向けて、資格と科目を紐付けしたカリキュラムの検討を行っている。 ②について ・ドローン操縦資格取得するための機器を整備した。 ・年度中の農業散布用ドローン操縦資格機関の認定を目指している。 ・新たなドローン関連の資格取得に向けた整備に取り組んでいる。				
進路指導	資格取得	各学科共通 ①農業経営及び農業法人や関連企業への就職に必要な資格取得等の推進 ②6次産業化や食品関連企業への就職を見据えた資格取得の推進	取組 ①・②共通 ・安全安心メール、校内掲示板、講義等における情報提供 ・受験手続き支援 ・進路決定に有利な資格取得に向けた授業や講義時間外ゼミ開催による資格取得支援 ・危険物取扱者・毒物劇物取扱者・フラワー装飾技能士(技能五輪全国大会への参加) ②について ・食品安全検定・食品衛生責任者養成研修・食品表示検定 ・POP広告クリエイター検定	B	B	目標 【農学科】【畜産学科】共通 ①農業経営及び農業法人や関連企業への就職に必要な資格取得の推進 ②6次産業化や食品関連企業への就職を見据えた資格取得の推進	取組 【農学科】 ①・②共通 ・安全安心メール、校内掲示板、講義等における情報提供 ・受験手続き支援 ・資格取得に向けた講義【資格取得対策】(1年生)、時間外での勉強会開催による資格取得支援 ・危険物取扱者(乙4種)・毒物劇物取扱者 ・フラワー装飾技能士(技能五輪全国大会への参加)・グリーンマスター ・土壤医3級(土づくりアドバイザー)・日本農業技術検定3級、2級 ②について ・食品安全検定・食品衛生責任者養成研修・食品表示検定 ・POP広告クリエイター検定、フードアナリスト4級 【畜産学科】 ①・②共通 ・安全安心メール、校内掲示板、講義等における情報提供 ・受験手続き支援 ・資格取得に向けた講義、実習及び時間外での勉強会開催による資格取得支援 ・家畜人工授精師、家畜体内受精卵移植師、2級肉蹄師、家畜商、車両系建設機械、フォークリフト ②について 農学科と同じ
			成果 【農学科】 ①について ・資格取得に向けたゼミを放課後に開催し、資格取得を学科職員支援(危険物取扱者12名、毒物劇物取扱者5名、土壤医検定3級7名(土壤医の試験は2月) ・危険物取扱者 危険物乙種第4類 1名合格 ・フラワー装飾技能検定受験者(3級6名、2級1名)に対しては、外部講師を依頼しに講習会を実施(試験は2月) ・グリーンマスター認定試験 2級2名、3級2名、4級2名が合格 ・昨年11月に開催された技能五輪全国大会に花き専攻学生2名が本県代表として参加し、うち1名が取組賞を受賞した。 【畜産学科】 ①について ・家畜人工授精:27名、2級認定牛胴:24名、家畜体内受精卵移植:6名、家畜商:1名 ※本年度は、新型コロナウイルスの影響で、本県で毎年開催される家畜商の講習会が中止となった。 【フードビジネス専攻】 ②について ・食品衛生責任者については、10月に1年生7名全員が取得した。 ・食品表示検定については1、2年生11名全員が受験したが、合格者を出すことが出来なかった。 ・フードアナリストについては、8月に研修会と試験が実施され、3級:7名(2年4名、1年3名)、4級8名(2年生1名、1年生7名)が取得した。 ・POP広告クリエイター検定は、2月13日に1年生10名(フード7、果樹1、作物2)が受験予定。 【全学生共通】※主な資格 ・大型特殊車両免許(農耕用)1年:58名(2年:46名)・・・R2年度取得は1年のみ ・けん引(農耕用)1年:9名(2年:42名)・・・2年はR1年度取得を含む ・フォークリフト技能講習・1年:17名(2年:33名)・・・2年はR1年度取得を含む				

評価項目	担当	令和2年度の目標	令和2年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和2年度評価		令和3年度目標及び目標達成のための取組(取組の☆は、新たな取組または強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部	目標	取組
進路指導	就農・就職 対策	教務学生課 ①年内の進路確定 100% ②就農率 60%以上	①について ・ハローワークへの登録や法人マッチング会による1年次からの学生への意識付け ・インターンシップを活かした就職先開拓 ・農大メールシステムを活用した求人情報の配信(学生・保護者等)	B	B	B	B	目標 ①年内の進路確定 100% ②就農率 60%以上(令和2年度卒業生 61.5%)
			②について ・就農コーディネーターや農業改良普及センター、農業振興公社等と連携した円滑な就農サポート ・農業次世代人材投資資金の有効活用 ・就農前研修のフォローアップ					①について ・ハローワーク登録や法人マッチングは、例年と同様に実施。 ・農大メールシステムを利用した、求人情報の配信方法の確立(学生及び保護者) ・掲示板の活用 ②について ・次世代投資資金需給(2年12名・1年6名) ※令和2年度卒業予定者の進路内定状況は別紙参照
進路指導	就農・就職 対策	各学科共通 ①農業に夢を持って意欲的に取り組む人材の育成 ②自主的な進路情報収集能力の育成と進路を決定するまでの個別支援及び自立支援 ③宮崎県の農業及びフードビジネス産業等を支える人材の育成	①について ・就農希望者に対する農業改良普及センターや自治体、就農コーディネータと連携した就職支援 ・コミュニケーション能力向上のための地域イベントへの積極的な参画 ②について ・進路決定に向けた個別面談の実施 ・1年次からの進路計画作成及びその計画に基づく進路指導、進路設計のサポート実施 ・カリキュラムと連動した進路情報収集、決定支援 ・希望者を対象とした履歴書作成や面接指導など試験対策の実施 ③について ・フードビジネス関連団体や企業と連携した講義や研修の実施	A	A	A	目標 【農学科】【畜産学科】共通 ①農業に夢を持って意欲的に取り組む人材の育成 ②自主的な進路情報収集能力の育成と進路を決定するまでの個別支援及び自立支援 ③宮崎県の農業及びフードビジネス産業等を支える人材の育成	
			【農学科】 ①について ・就農希望者1名に対し、就農コーディネーターと情報を共有し、農業改良普及センターや自治体への訪問を促し就農を支援 ②について ・三者面談1年生のみ1回(さらに2月実施予定)、個別面談を3回以上実施 ・就職試験を受験した学生に受験報告書の提出を徹底させ就職試験の情報を蓄積 ・専攻担任を中心に進路決定、就職試験に係る面接を指導 ③について 2年生講義「法人経営」において、先進的農業法人経営体の講義や校外学習を実施 【畜産学科】 ①について ・就農希望者や海外研修希望者に対して、就農コーディネーター等と情報共有し、農業改良普及センター等への訪問を促し、支援した。 ②について ・三者面談1年生1回(さらに2月実施予定)実施、その他個別面談を随時実施した。 ・就職支援のため就職情報の提供やハローワークへの訪問を促し、支援した。 ③について ・企業と連携した農業や加工の講義・校外学習を実施した。新型コロナウイルスの影響で山形屋販売での店頭販売参加は中止となった。 【フード】 ①・③について ・農大市や農大祭、地域イベントへの参加による接客や委託販売先(4カ所)への納品出荷等を通じて、学生のコミュニケーション能力向上や社会性の向上につながった。 (農大市6回、イベント3回:8月・JA児湯1回、12月:ママンマルシェ2回) ②について ・就職対策として、個別に電話対応や履歴書作成、面接指導を行った。大学への進学希望者については、大学への事前連絡や小論文添削を通じて指導した。 ・三者面談1年生1回(さらに2月実施予定)				取組 【農学科】 ①について ・卒業後即就農希望者について就農コーディネーターと情報共有、連携し就農を支援 ・「アグリカレッジひなた」が参加する地域イベントへの積極的な参画を呼びかけ、地域との交流を促進 ②について ・進路決定に向けた個別面談の実施 ・1年次からの進路計画作成及びその計画に基づく進路指導、進路設計のサポート実施 ・インターンシップや自主企画研修などカリキュラムと連動した進路情報収集、決定支援 ・面接指導など試験対策の実施 ③について ・フードビジネス関連団体や企業と連携した講義や研修の実施 【畜産学科】 ①について ・就農希望者、研修希望者については就農コーディネーターや農業改良普及センターと連携した進路支援 ・各種イベントへの積極的な参加支援を通じた社会で必要とされる(基礎的・汎用的)能力の育成 ②について ・1年次から進路決定に向けた個別面談の実施 ・インターンシップや自主企画研修などカリキュラムと連動した進路情報収集・支援 ・面談や履歴書等試験対策の実施 ③について ・フードビジネスや関連企業と連携した新たな商品開発や販売の検討	